

薬害のない明るい未来へ！



8月24日は、

薬害根絶デー

薬害イレッサを解決して、薬害の連鎖を断ち切ろう！
薬事行政を監視する第三者機関を実現させよう！



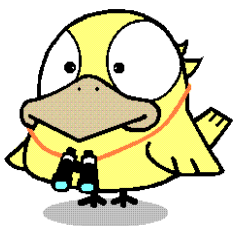
厚労省内の「誓いの碑」

開催日：2010年8月24日（火）

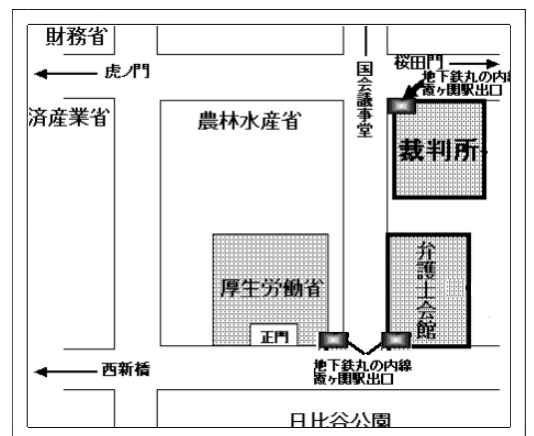
- 11:45～12:55 厚労省前リレートーク
- 13:00～13:15 厚労省前庭・碑の前行動
- 13:30～14:00 パレード
- 15:00～17:00 集会（弁護士会館2階クレオ）
- 17:30～18:30 街頭宣伝活動

今年、現在進行中である薬害イレッサ訴訟が結審し（西日本7月30日、東日本8月25日）、いよいよ全面解決に向けて本格的に動き出します。

また、薬害肝炎の検証会議では、医薬品行政を監視する第三者機関の設置の提言がなされました。薬害の連鎖を断ち切るために大きな山場を迎えます。



薬害オンブズパースンマスコット「カナリアン」



[最寄り駅] 霞ヶ関駅B3出口（厚労省）
B1出口（弁護士会館）
（東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線）

薬害根絶デー実行委員会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-11-12
岩下ビル4階 オアシス法律事務所内
TEL03-5363-0138 FAX03-5363-0139

☆カンパにご協力下さい☆

東京都民銀行東新宿支店 普通 4033589
薬害根絶デー実行委員会会計 中川素充
(なかがわもとみつ)

こんなにあった日本の薬害

これまでに起きた薬害事件を一部紹介します。

1956年 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961年 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが産まれた。被害児は世界で数千人、日本で約千人。レントツ博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、日本では警告後9カ間も販売を継続させた。

1965年 アンブル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者が多発し発売中止に

1970年 スモン

60年代から下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約1万2000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売された。

1971年 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。
被害者千人以上。

1983年 薬害エイズ

HIV（エイズウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者等約1800人がHIVに感染。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化されたが、日本では85年まで危険な非加熱製剤が使用され続けた。

1988年 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重篤な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性の情報伝達が不十分で、安易に計画分娩をすすめたことが原因。

1989年 MMRワクチン

新3種混合ワクチンにより死亡者や重篤な障害が発生

1993年 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996年 薬害ヤコブ病

脳外科手術で使用したドイツ製のヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの1997年。

2002年 薬害肝炎

出産や手術などの際に止血目的などでHCV（C型肝炎ウイルス）に汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、多数の人（少なくとも1万人以上）がHCVに感染。被害者・遺族が2002年以降、全国5地裁で提訴し、判決を経て、2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002年 薬害イレッサ

肺がん治療薬、申請後僅か5ヶ月で承認され、「夢の新薬」などと言われたものの、発売直後から間質性肺炎の副作用による死亡が多発した。他方で、市販後の第Ⅲ相臨床試験では相次いで延命効果の証明に失敗。被害者・遺族が2004年に提訴。

2006年 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬タミフルを服用した後、飛び降りなど異常行動や突然死で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

薬害のない明るい未来へ